

フレンチブルドッグ・ベーシックス

French Bulldog Basics

個人的に、けれども普遍的に、思いを語ろう。

世の中に犬の飼い方のマニュアル本は数あれど、
何か足りない、あるいは当てはまらない、ハナシが違う…それはそうなんです。
教科書的な書き方、やり方だけでは、フレブルのリアルは伝わらない。
ほんとうのベーシックスをZAIHOO代表のはつんに語ってもらいましょう。
先生ではなく、生徒会長として。



ナビゲーター
羽田悠一郎
(ZAIHOO代表)

FRENCHBULLDOG
The Newest manual



あたらしい

フレンチブルドッグとの暮らしかた

ややこしくもたのしいフレブル取扱説明書

フレンチブルドッグの魅力



CHARM OF FRENCH BULLDOG

テ

レビ番組やCMで見かけることが多くなったフレンチブルドッグ。人間の赤ちゃんと抱き合って転げ回るクリーム。白と黒の牛柄模様をした顔と体で機敏に車に乗り込むバイド。電話口から呼ばれた自分の名前に首を傾げる真っ黒な毛並みのブリンドル。ブラックマスクと呼ばれる、日本昔話に出てきそうなドロボウ顔で大きなイビキをかくフォーン。フレンチブルドッグのメインカラーはこの4色（クリーム、バイド、ブリンドル、フォーン）ですが、それぞれのカラーには濃淡や模様の出方によつての違いもあり、バラエティ豊かです。クリームには白っぽいものから濃いものまであり、バイドは黒い斑の入りが個性によつて様々で、顔の左右に均等に入るものや、片方だけに入る、通称「片パンチ」と呼ばれるもの、ブリンドルは差毛の少ない黒ベースの子から、差毛の豊富な「タイガーブリンドル」と呼ばれるもの、フォーンも基本的には茶系ですが、ライトブラウンからレッドまであり様々です。フレンチブルドッグの魅力は、まずこの多彩なカラーバリエーションではないでしょうか。

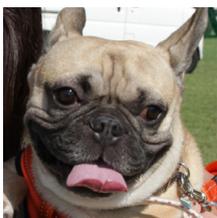
もう10年以上前の話になりますが、僕自身も、はじめてフレンチブルドッグに魅かれたのはバイドカラーに強烈な個性を感じたからでした。今でもはつきり覚えていま

す。当時住んでいた目黒の一人暮らしの家から世田谷の友人宅を目指して、三宿通りを自転車で行った時でした。

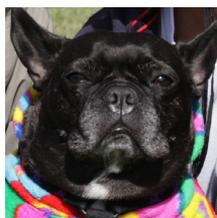
世田谷公園から犬の散歩をしながら出てきたマダムは左手に握られたリードの先。犬なのに子ブタみたいに丸々した体、全身が牛柄模様、小型のブルドッグみただけど耳が立っていて、しっぽのないお尻をプブリリしながら歩くその愛らしい姿に「この犬と暮らしたい！」一瞬で恋に落ちました。「恋はするものではなく、落ちるものだ」誰かが言っていたように思いますが、まさにそうです。僕は必死にその犬について調べました。もしかしたら犬じゃなくてヨーロッパあたりのオシヤレな豚かも？ と少しの疑いを持ちながら……。

フレンチブルドッグのルーツについては様々な説がありますが、おそらく1860年頃にフランスへ移民してきたレース職人達が、イギリスの小型ブルドッグをフランスに持ち込み、テリアやパグなどの他犬種と交配させ作られたのがフレンチブルドッグだと言われるのが有力です。

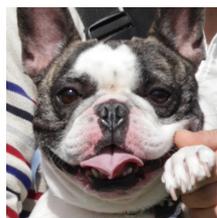
フレンチブルドッグはその愛らしい風貌で、たちまちフランスの女性たちを魅了していきました。フランスの人々は特にフレンチブルドッグの立ち耳に魅力を感じたようです。フランスの繁殖家たちはこの犬に



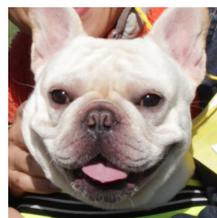
Fawn



Brindle



Pide



Cream

「ブルドッグ・フランセ（フレンチブルドッグ）」という名前を付け、こぞってこの耳の立ったフレンチブルドッグの繁殖をはじめました。19世紀も終わりになると、フレンチブルドッグは上流階級の人々からも注目を集めるようになり、たくさんのフレンチブルドッグがすばらしいお屋敷で飼われることになりました。

ちょうどその頃フランスに来ていたアメリカ人がこのフレンチブルドッグという犬種に目をつけ、何頭かのフレンチブルドッグが初めてアメリカに持ち込まれ、熱心に繁殖されました。1898年には、ニューヨークのウォールドルフ・アストリア・ホテルでフレンチブルドッグの単独ショーが開催され、現在のスタンダードによるフレンチブルドッグが公開されました。その上品で優雅なショーは、お金持ちの観衆を魅了し、フレンチブルドッグはアメリカ人たちを完全に虜にしてしまいました。かの有名な大富豪ロックフェラーがフレンチブルドッグをこよなく愛したというのも有名な話です。その後も上流社会でのフレンチブルドッグの人気は上昇し続け、1913年にはアメリカで人気ナンバーワンのシヨードッグにフレンチブルドッグが輝くことになりました。そしてアメリカにおいてフレンチブルドッグのスタンダードに「バットイヤー」（コウモリ耳）と呼ばれる「立耳でなければ

いけない」という項目が決められました。

それまでは立耳だけでなく垂れ耳のものや、ブルドッグのような「ローズイヤー」のものもフレンチブルドッグとされていましたが、後に他の国々もアメリカのスタンダードに追随し「バットイヤー」がフレンチブルドッグの大きな特徴のひとつになりました。

現在、日本でのフレンチブルドッグという犬種は主にペットや家庭犬として飼育され、愛情深く、気立てが良く、頼りにもなります。またフレンチブルドッグは遊び好きの明るい性格で、無駄吠えもほとんどしません。サイズはコンパクトで室内向き、なめらかで短い被毛は手入れも楽で清潔を保ちやすいとされます。フレンチブルドッグの魅力は、一度でも飼ったことのある人であれば他の犬種に物足りなさを感じてしまうほどだと言われます。付き合えば付き合い合うほどフレンチブルドッグの奥深さに引き込まれ、愛してしまう犬種なのです。



さまざまな出会いのかたち

THE FORM OF A VARIETY OF ENCOUNTER



「この犬と暮らしたい！」フレンチブルドッグのバイドに恋落ちてから、実際に僕がフレンチブルドッグを迎えたのは、東京から静岡の実家に戻った数年後のことでした。出会いは友人から届いた1通のメール。「可愛いバイド発見！」という件名で届いたそのメールには、「ブリーダーさんのホームページのURLが貼られていました。のちに僕が「キューピー」と名付けることになるそのバイド。僕とキューピーの出会いには友人がインターネットで見つけたブリーダーさんの子犬情報でした。

キューピーに出会う前、僕はまずバイドを探してペットショップ周りを繰り返しました。友人たちにも声をかけ、フレンチブルドッグを見かけたという情報があれば、ちょっと遠くてもかまわず車で走りました。それでも静岡の田舎だけに、フレンチブルドッグの子犬自体がそもそも少なかったんです。さらにバイドで、さらにカラーの入り方のこだわりまであったので、それはもう近隣で探すのは難しいですね。結果的には、友人の間接的な知り合いのブリーダーさんの所で、僕の希望のバイドの子犬情報があったから出会えましたが、その時点で探し始めて半年以上が経っていました。そしてそのブリーダーさんもかなり遠方の方だったので、友人のつながりがなければ

安心して購入は出来なかったと思います。

そして、この経験が僕の人生のターニングポイントになります。

僕はパイドのキューピーを迎えた半年後に2頭目、さらに3頭目を迎え、ブリーダーやドッグショーの魅力にはまっていた。そしてその過程でたくさんのフレンチブルドッグ専門のショーブリーダーさんと出会うことになりました。ショーブリーダーさんたちの「フレンチブルドッグらしいフレンチブルドッグ」の子犬をみるたびにいつも感じていました。僕がはじめてパイドを探していたあの時に、このショーブリーダーさんたちの子犬情報を知ることができていたらどれだけ幸せだったろうか……。僕がZ A I H O O（ザイホー）というフレンチブルドッグ専門の子犬情報をメインとした総合サイトをはじめると時間はかかりませんでした。

Z A I H O Oをはじめ8年で、300頭以上の子犬や若犬をお客様に紹介してきました。僕は自分の経験から、子犬はブリーダーさんから迎えるべきだと考えています。ブリーダーさんのもて生後60日前後までの社会期を親兄弟と共に過ごした子犬を迎えるべきだと思います。

気に入った子犬がいたら、まずブリーダー

さんの所に見学に行き、子犬はもちろん、兄弟や親犬とも触れ合ってみるべきです。

そして子犬を迎えるにあたり不安なことや、わからないことなど、育てたブリーダーさんから直接お話を聞いて購入を検討するのがいいと思います。子犬探しをするときは、可愛い子を探したい、自分のタイプを見つめたい、ということだけに必死になってしまうもの。それは僕自身も経験があるので十分わかります。でも子犬は迎え入れるからが本番なわけです。実際に子犬を迎え入れてからが大変なことや、わからないことがたくさん出てくるものです。そんなときも、育てたブリーダーさんに直接相談できる安心感というのは非常に大きいものです。たとえば子犬の体調で気になることがあったとして、動物病院にいかうか迷うような時は、まずブリーダーさんに様子伝えて、最善の方法をアドバイスいただけてからその状況に対処していくほうが良いわけです。そうやってブリーダーさんと親戚付き合いのようになっていくことが、子犬を迎え入れ、暮らしていくベストな形だと思えます。ブリーダーさんもブリーダーさんで、苦労して育てた子の成長をずっと見られるわけですから、やはりベストなんです。

ブリーダーという協力者

COLLABORATOR CALLED BREEDERS



それではブリーダーさんとはどのような存在なのでしょう？

僕がZ A I H O Oで紹介させていただいている子犬のブリーダーさんだけでも様々な方がいらっしゃいます。20年以上、犬一筋で生きてきたベテランブリーダーさん。定年後に興味ではじめたドッグショーからハマりだしたご夫婦のブリーダーさん。世に通用するフレンチブルドッグを作ることを目標に、一匹狼でスタイリッシュなブリーダーさん。繁殖を突き詰めるために、繁殖学の先生とタッグを組む血液マニアなブリーダーさん。とにかく環境が1番、犬質の良さは当たり前で、何よりフレンチらしい人懐っこい性格を作ることこだわるブリーダーさん。さらに、ヨーロッパタイプにこだわる、アメリカンタイプにこだわる、その中でも血液にこだわる、カラーにこだわる、などなど、一口にフレンチブルドッグのブリーダーと言っても、それぞれの背景、スタイル、考え方で、とにかく様々です。ただ、そんな様々なブリーダーさんたちでも、共通していることが1つあります。質の高いブリーダーさんなら必ず共通していること。それはブリーディングの目指すところが「スタンダード」ということです。スタンダードとは簡単に言ったら、その犬種の「基準」。基準はJKC（ジャパネズルクラブ）が定めるもので、いくつもの

細かい項目から、フレンチブルドッグはこうあるべき、と示しています。質の高いブリーダーさんというのは、共通してそのスタンダードを目指して計画的に繁殖をしています。そしてその中にブリーダーさんは自分の犬舎の「顔」(タイプ)をプラスしていきます。

苦勞して作られた犬舎の顔をラインブリーダー(親子兄弟以外の近い血筋(一般的に3〜5代祖)に同一個体が使用される繁殖方法の事)しながら守り、さらなる向上を目指していきます。そんなブリーダーさんは積極的にドッグショーに参加して、そこで評価されることを誇りにしています。勘違いしてほしくないのは、ドッグショーに出ることが正しいとか、チャンピオン犬が偉いとか、そういうことではないんです。ただ犬種にはそれぞれの歴史があります。フレンチブルドッグにしても、先人たちがブルドッグ、ポストンテリア、バグなどの異種交配を繰り返し時間をかけ作り出した犬種なわけです。フレンチブルドッグブリーダーを生業とするのなら、そんなフレンチブルドッグを作り出した先人たちの努力を受け継ぎ、自分たちの後世の人たちにも「フレンチブルドッグの正しい魅力」を伝えることが義務でもあるんです。

ただ、残念なことにそう考える人がすべ

てではありません。すべてのブリーダーさんの繁殖目的が「スタンダード」なわけではありません。いわゆる繁殖屋さんと呼ばれるブリーダーさんもあるわけです。名前からして想像が付きやすいかと思いますが、人気のカラーや大きさだけを追って無計画な繁殖を繰り返すブリーダーさんです。スタンダードなどまったく関係なく、とにかく売れる子犬を作るために次から次へとメス犬に子犬を産ませます。ペットシヨップなどで「極小サイズ」を売りに販売されているあきらかに健全ではない子や、体のラインが細すぎて、全くフレンチブルドッグらしさが感じられない弱々しい子犬も繁殖屋さんの子が多いのが現状です。

もちろんペットシヨップのすべてが良いというわけではありません。ペットシヨップでも良質な子にこだわって厳選したブリーダーさんのみから仕入れているところもあります。ただその他、大半のペットシヨップの仕入れ先はオークション(犬の競り市)というのが現状です。オークションで買われた繁殖屋さんの子犬がペットシヨップのケースに並ぶまでの流れや、それに伴うデメリットは、これから子犬を迎えたいと考えている方でしたら、是非ご自分で調べてみるべきだと思います。インターネットを使って調べればすぐ知ることが出来ますし、知っておくべきことだと思います。

それでは、どうやってフレンチブルドッグらしいフレンチブルドッグに出会うことができるのか? ですよね。

僕は前述したとおり、**子犬はブリーダーさんから迎えるべきだと考えています。**ブリーダーさんのもとで生後60日前後までの社会期を親兄弟と共に過ごした子犬を迎えるべきだと思います。今でしたらフレンチブルドッグ専門ブリーダーさんのホームページは探せばたくさんあると思いますから、その中で自分のタイプのフレンチブルドッグを繁殖しているブリーダーさんを探してみたり、すでにフレンチブルドッグを飼われている方や、散歩している子でタイプの子がいれば話しかけて情報収集してみるのも良いと思います。また、自分では子犬やブリーダーさんの良し悪しが判断出来ないようでしたら、手前味噌ではありますが、僕がZ A I H O Oでやっているようなショーブリーダーさんの子犬を専門で紹介しているところで探していただければ良いと思います。



オス / メスの特徴

CHARACTERISTICS OF MALE AND FEMALE



フ レンチブルドッグのオス／メスの特徴としては、個体差があるので平均的なお話にはなりません。まず外見

的にはオスはメスより顔が大きくなり、胸も深く、腰にかけてくびれが出来るので、体のラインにメリハリが出ます。メスはオスよりひとまわり顔が小さく、体のラインはどちらかというところストリートです。いわゆるフレンチブルドッグらしさや雰囲気想像

される方はオスの形が多いと思います。体重の平均はオスが10〜13キロで、メスが8〜11キロくらいです。見た目は小さいですが筋肉質なので、抱きかかえると重い印象だと思えます。性格も個体差がありますが、オスだから気が強いとかメスだから穏やかだということはありません。僕の経験やお付き合ひのあるブリーダーさんの子たちを見てきた中では、オスのほうが忠誠心が強く、人間の後をずっとついて回るような甘えたりな子が多いように思います。メスのほうはどちらかというところマイルドなオスといった印象があります。

あとは皆さんが1番気にされるのが、マーキングや生理（ヒート）のことです。マーキングはする子としない子がいますが、子犬を迎えた最初のしつけが一番大事かと思えます。「トイレはここ」と覚えれば、家の中ではマーキングしない子も多いと思

います。僕の家にもオスが2頭いますが、どちらも散歩のときにはマーキングを多少しますが、家の中では一切しません。母犬をみて育ったせいか、足すら上げずに腰を落としてメスと同じ体勢でおしっこをします。もし家の中で足をあげておしっこするようでも、最近はおス専用のL字型のトイレやコの字型に囲まれたトイレなども色々販売されています。

また、トイレも1日2回（5〜10分程度）外に散歩に行ける環境でしたら、成犬になると散歩のときにしなくなる子も多いので、部屋が汚れたりするのも1歳くらいまでということも多いです。その2回のうちにおしっこもうちもすませるリズムになると、飼い主のほうは非常に楽になります。ただ、台風や真夏、そして老後のことも考えると、家の中のトイレは必ず作っておいてください。家の中でする場合は「トイレはここ」と覚えさせておくことが大事です。

生理（ヒート）は生後8ヶ月〜1歳半くらいで1回目がかかることが平均的です。その後は6ヶ月〜8ヶ月おきくらいのペースで、期間は2〜3週間くらい続きます。ただ、その時々によってヒートの長さも違いますし、血が出ている期間もまちまちです。この期間は部屋が汚れて大変なので、サニ

タリーパンツなどを履かせることをオスメします。個体差がありますので一概には言えないところもありますが、そういった所がオスメスの特徴です。

僕が今までZAAHOOを通して子犬を紹介してきた経験では、子犬を探す段階で明確な理由がないかぎり、まずはオスメスに絞らずに、インスピレーションを感じた子が見つかったら見学に行かれて検討されるほうが良いと思います。オスでもメスでも大変なことはあるわけですから、ブリーダーさんに父犬や母犬を見せていただき、親犬の性格や特徴などを教えてもらい参考にしましょう。





それから、子犬を迎え入れてからのこと
になりますが、オスの**去勢手術**、メスの**不妊手術**については、獣医さんや経験された
方のお話をしっかり聞いて検討されてくだ
さい。獣医さんが勧めるから、周りがみん
なやっているから、病気のリスクが減るか
らなど、人それぞれ判断や決断する理由も
違うとは思いますが、メリット、デメリッ
トをちゃんと理解したうえで、きちんと悩
んで決めていただけたらと思います。これ
に関してはブリーダーさんに相談しても、
去勢、不妊はしなくていいとおっしゃる方
がほとんどかと思えます。ブリーダーさん
は繁殖するわけですから当たり前聞こえ
るかもしれませんが、繁殖しなくても、そ
もその自然の生体は崩すべきでないと思
えられている方が多いのかもしれない。

遊びと散歩についての考察



A STUDY OF STROLL AND PLAY

フレンチブルドッグの子犬は遊ぶこと
が大好きですから「この人とい
と楽しい！」と子犬に慕われることが、飼
い主として信頼してもらえるコツでもあり
ます。遊びながら物引っ張ったり、追
かけたという犬の本能を満たしてあげれ
ば、ストレスも減り、いたずらも少なくな
ると思います。ただ気をつけたいのは遊び
をはじめるとも終わりにするのも**飼い主の
主導にすることが大切**です。

例えば、子犬がケージの中で「遊んで！
遊んで！」と吠えた時に出して遊びはじ
めたりすると、吠えたことでケージから出
てくれて遊んでくれたと認識してしま
いますので、遊びをはじめるときは子犬が落ち
着いているときにしましょう。遊びを終
りにするのも、子犬が飽きたり疲れたりす
る前に飼い主の主導で終わりにするよう
にしてください。それから、子犬を家に迎
入れた日から2〜3日は、かまひ過ぎたり
遊び過ぎないようにしたほうが良いと思
います。子犬は親兄弟のもとを離れて新し
い環境になるわけですから、特に迎えた当日
はゆっくり寝かせてあげるようにしましょう。

遊び方の注意点としては、フレンチブル
ドッグは骨格構成上、脊椎と四肢関節が強
いほうではありませんから、日常的にラフ
な遊びばかりしていると負担がかかります。

アクシデントを回避するコツを挙げるとす
れば、滑る床では極力遊ばせない、ボール
を投げて回収させるような遊びをさせない
（ボールをキャッチする際に急ブレーキを
かけ関節への負担が大きい）、高い段差か
ら飛び降りさせない（平坦な場所で遊ばせ
る）、成犬と仔犬など**体重差があつて遊ん
だりする場合は激しくからませない**（立っ
た状態で上に乗られると膝蓋骨にかなり負
担がかかり、脱臼の恐れあり）、など、神
経質になりすぎることはありませんが、気
をつけることでトラブル回避につながりま
すので覚えておきましょう。

子犬は2回目のワクチン接種（土地によ
っては3回目のワクチン接種）が終わって
から10日ほど経ちましたら、いよいよお散
歩デビューです。フレンチブルドッグはそ
れほど運動量が必要とする犬種ではありま
せんが、ストレス解消や肥満防止も含めて、
1日2回、10分くらいずつ散歩してあげる
と良いと思います。散歩では通りすがりの
人に撫でてもらったり、他の犬と出会って
挨拶したり遊んだりすることで、犬社会の
付き合い方を忘れずにいられます。フレ
ンチブルドッグは暑さに弱い犬種ですから、
暑い季節は早朝や日没後の涼しい時間帯に
散歩するようにしましょう。7月〜8月の
真夏のピークの時期は散歩自体を控えたほ

うが無難です。

僕自身も初めて迎えたバイドのキュービ
ーがそうでしたが、お散歩デビューはほと
んどの場合、**立ち尽くすだけで歩いてくれ
ません**。もし歩いてくれたとしても、初日
から散歩と呼べるほどは期待できないと思
います。ただ、そんな場合も無理にリード
を引っぱって歩かせようとするのはやめま
しょう。子犬は骨格が出来あがっていない
ので、とても負担になってしまいます。歩
かない場合は子犬の少し前に行って子犬の
名前を呼んだり「おいで」と優しく声をかけ、
ついてきたら大げさに褒めてあげましょう。
歩かないからといってすぐに抱いてしまっ
ても良くないです。もし抱くのなら家を出
るときから抱いたまま50メートルくらいの
場所を下ろし、家に向かって帰る方向に歩
かせようとしてみるほうがいいでしょう。
しつけ全般も同じことですが、散歩も焦ら
ず少しずつ慣らしてあげるようにしましょう。

成犬になると平均してメスで9キロ前後、
オスで12キロ前後になりますから、**散歩で
の引く力も非常に強くなります**。子犬は生
後6カ月くらいから1歳くらいにかけて本
格的に体が出来あがってきますから、この
時期くらいから散歩時は飼い主の左側を並
んで歩けるようにしつけてあげることが大

切です。リーダーウォークの基本ですが、
飼い主の主導による歩き方を覚えさせるた
めに、例えば子犬が前に行こうとしたとき
に飼い主がリードを引っ張るのではなく、
向きを変えて歩き出します。もちろん初め
から上手くはいきませんが、それを何回も
繰り返すうちに、飼い主を見ていないと違
う方向に引かれることがわかりますので、
自然とアイコンタクトがとれるようになり、
飼い主といっしょに歩くようになります。
子犬に感じてもらう、考えてもらうように
するのがコツです。



日常のグルーミング方法

GROOMING HOW TO EVERYDAY



子 犬の頃からグルーミングは積極的
にするようにしましょう。といって

も最初から色々やろうとすると驚いて嫌が
るので、まずは子犬を迎え入れてからスキ
ンシップをたくさんとっておくことが大切
です。日頃からスキンシップをとり、子犬
に触ってあげること、子犬は飼い主への
安心感や信頼感を覚えます。スキンシッ
プで子犬の体のどの部分を触っても嫌がらな
いようにしておくと、グルーミングがとて
も効率良くなります。

犬は耳や口、お尻や足先などの敏感な部
分はあまり触られたくない部分ですが、普
段からマッサージをしたり、おやつを使っ
たりと、**徐々に触ることに慣れさせていく
ようにしましょう**。スキンシップは子犬が
遊び終わって落ち着いたときや、ごはんを
食べた後、のんびりしているときが良いと
思います。嫌がることをしつこくすると逆
効果になるので気をつけてください。子犬
にはグルーミングは楽しく心地よいもの
だと思わせたいので、飼い主のほうも緊張
せずにリラククスしてやりましょう。爪切
りや耳掃除もそうですが、基本的にトリミ
ング台を使ったほうがスムーズです。

爪切りを初めてやるときは緊張するかも
しれませんので、2人がかりでおこなうと
良いと思います。1人がオヤツを口の近く

にもっていき、舐めさせたりして子犬がオヤツに集中している間に、もう1人が爪を切るといった感じです。爪切りをするると血管を切ってしまう血がでることもありますので、前もって止血剤を用意しておいてください。血が出るのを恐がって爪を伸ばし過ぎてしまうと爪の血管もほとんど伸びてしまい、長い状態で切っても血が出てしまうようになります。他にも、爪の伸びすぎは足と地面の接地面のバランスを崩すことにつながりますから、犬の体重移動のバランスも崩すことにつながります。足の指も横を向いてしまったりと変形してしまうこともあるので、子犬のうちからマメに短く保ってあげることがベストです。もし自分で出来ないようなら、獣医さんやトリミングサロンで一度短く切ってもらってから、自分で挑戦してみてください。

耳掃除はコットンにイヤークロージョンをつけ、耳の中を拭いていく感じです。綿棒などを使って綺麗にしたいときは、獣医さんに行ったときに、綿棒の使い方やコツなどを教えてもらってください。わからないままやってしまうと、逆に耳垢を奥に詰め込んでしまうことになるかもしれませんので注意してください。

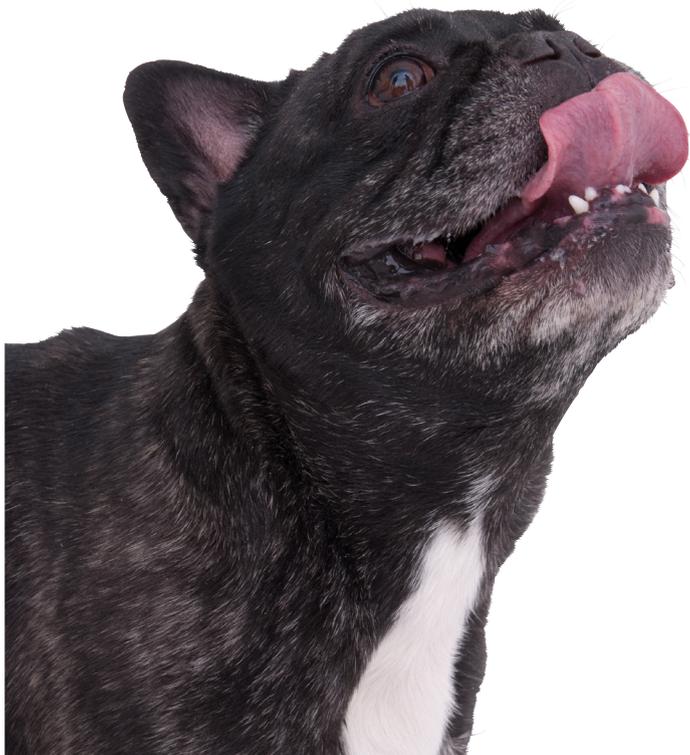
歯磨きも色々なブラシなどが出ていると

思いますが、最初のうちはガーゼを指に巻き、歯磨き剤をつけ、子犬の口に入れて磨いてあげればよいと思います。それに慣れてきたらブラシを使って磨くことに挑戦してみましよう。犬用の歯磨き剤はゆずがずにそのまま食べても大丈夫です。歯磨きは犬にとっても大切な習慣です。ほうっておくと歯周病になり、膿が出たり、歯が抜けたり、内臓疾患を起こすこともあります。歯周病の原因となる歯石をつけないように子犬の頃からケアしてあげたいところです。長年かけてついてしまった歯石は獣医さんで除去してもらおうようにしましょう。

シャンプーは冬場は2〜3週間に1回、夏場は1週間〜10日に1回くらいのペースで洗ってあげると良いと思います。必要以上の洗すぎは皮膚の炎症につながることもあるので気をつけましよう。犬用のシャンプーを使い、爪を立てないように指の腹でやさしくマッサージをするように洗ってあげてください。同時に肛門腺（肛門の左右の下に臭い分泌液がたまる部分）も絞ってあげるようにしましよう。初心者の方で上手に絞れないようでしたら、獣医さんなどで絞り方のコツを教えるてもらってください。コツを覚えてしまえば簡単に絞れるようになります。

シャンプーのポイントとしては、注意書

きに書いてある放置時間を守ることです。洗い始めや洗い流す際は、人肌程度のぬるま湯でおしりのほうから徐々に流してあげてください。シャンプー剤が皮膚に残ると、かぶれたり、フケ、かゆみの原因になることもあるので十分にすすいであげるようにしましょう。その後はタオルドライに時間をかけて念入りに拭いてあげること、ドライヤーの時間も短縮できます。ドライヤーは熱風でのやけどに気をつけて、生乾きにならないよう全身の根元まで乾かすようにしましょう。顔の正面からあてると目をやけどしてしまうので、温風が目にあたらないように頭の上から低温の弱風をあてるようにしてください。指の股も意識してちゃんと乾かすようにしましょう。





長寿のためにできること

CAN DO FOR LONGEVITY

長

長寿を考えた時、犬も人間と同じで肥満があらゆる病気の元です。特にフレンチブルドッグは、肥満からくる関節のトラブルやヘルニアなどを起こしやすい犬種ですから注意しましょう。子犬の頃はコロコロとした体でも、本格的な運動をする頃になれば自然と体も出来あがり、運動量と食事量のバランスがとれていれば太りすぎになることはありません。ご飯の適量は個体差やその子の運動量によっても違います。ドッグフードのパッケージの説明に体重に対する適量が書いてありますが、これもあくまで目安としてください。毎日管理している飼い主が状態を見極めて、年齢や状態に対する適量を決めるようにしましょう。

一般的にわかりやすい所では、子犬でも成犬でもご飯の適量の目安として、便の状態が判断できます。便がゆるければご飯の量が多く、固ければ少ないということです。見た目での肥満のチェックとしては、犬を上から見た時に胸にくびれがあること、胸部を触ると肋骨が確認できることです。胸にくびれがなく、肋骨を触っても確認できないようでしたら肥満になりはじめていますので注意してください。体重の計り方は飼い主が愛犬を抱いた状態で体重計にのり、その後には飼い主だけの体重を計り、引いた重さで確認すると良いと思います。

それから、よく人間が食べているものをついつい与えてしまう方がいらっしやいます。オスワリをしながら可愛い顔で見つめられたら与えたくなくなってしまふ気持ちは十分にわかりますが、長い目でみると愛犬の寿命を縮めることもありまふので注意してください。そもそも人間と犬では摂取するものが違います。犬には塩分も糖分もあまり必要ありません。塩分の多い加工食品や、甘いお菓子などは肥満の原因になりますし、チョコレートの成分のカカオに含まれているテオブロミンは神経を刺激して、発熱、嘔吐、下痢につながることもあります。またネギ類（長ネギやタマネギなど）も大量に食べると中毒をおこし、血尿や下痢、嘔吐などの症状につながりますので与えないように気をつけてください。とにかく、人間と犬では食べるものは別であるということとを頭にいれて、犬にふさわしい食べ物を与えるようにしてください。僕自身は、ご飯はドッグフードがメインで、しつけの際は普段食べているものとは別のドッグフードで匂いが強いものを使ってみたり、愛犬の誕生日や記念日などは犬用に作られたケーキやお菓子でお祝いして与えるようにしています。

7〜8歳くらいの高齢になってくると、基礎代謝が下がり、消化機能も衰えてきま

すので、より肥満になりやすくなります。食事もそれまでの成犬用からシニアフードに切り替えるのもこの時期が目安になります。フードの形状もなるべく小粒のものを選んだり、状況によっては子犬の頃やっていたようにフードをお湯でふやかして柔らかくしてあげましょう。ただ、ここでも個体差があり、7〜8歳くらいでも歯や顎も丈夫で成犬時の若さを保っているようでしたら、フードもカリカリのままのほうが丈夫な歯を長く保てたりしますので、そのあたりも年齢ではなく飼い主の判断で良いと思います。

また、7〜8歳くらいになってくると散歩に行きたがらなくなる子もいますが、それも肥満の元です。体が元気でいたらそれまでと同じように散歩にいき、もし歩ぎが鈍くなってくるようなら、ペースをゆっくりに変えたり、距離を短くしたりと、愛犬の状態に合わせた散歩をするようにしましょう。散歩での老化のサインとして、散歩中に止まって歩かなくなることがあります。そんな時、今まででしたら抱き上げるとわがままな子になるので避けていましたが、高齢による体の負担を感じたなら抱いてあげて良いと思います。抱きながら歩いて景色を見せてあげるだけでも気分転換になり、歩けないことへのストレス発散にもなります。



フレンチブルドッグと暮らす哲学

PHILOSOPHY TO LIVE WITH THE FRENCH BULLDOG

Z A I H O Oをはじめ、8年で300頭以上の子犬や若犬をお客様に紹介してきました。

お客様からのお問い合わせの中で、この数年とくに多いのが、1頭目のフレンチブルドッグを亡くされた方です。その傷が時間と共に少しずつ癒えた頃に、やはりフレンチブルドッグがない生活は考えられないと、子犬探しのご依頼をいただきます。亡くなってしまつたらさは二度と味わいたくないのに、そのつらさより、フレンチブルドッグがない生活のほうがもつとつらいのだと言われる方が非常に多いのです。これからフレンチブルドッグを迎えたいと思われている方は十分な覚悟が必要かもしれません。フレンチブルドッグは、一度迎え入れるとその魅力から抜け出せなくなります。その行動、しぐさ、立ち居振る舞いは「犬」というより「人間」に近いものを感じてしまうのが大きな要因だと思います。

僕は1頭目にバイドのキューピーを迎え、フレンチブルドッグの魅力にはまり、2頭目にブリンドルのプリンという女の子を迎えました。キューピーはパワフルで365日元気いっぱいな明るい性格に対して、プリンは人間の言葉や行動をじっとみて物事を判断するようなクールな性格の子でした。キューピーとプリンは毎日いっしょに行動

するのですが、キューピーがイタズラして僕に怒られるのを隣でプリンがいつもみています。そのせいか、キューピーが怒られたイタズラや行動をプリンは全くしませんでした。2頭目は先住犬の行動のマネをすることが多いですが、プリンはキューピーと僕を観察して自分の行動を決めるような、本当に犬らしくない子でした。

キューピーが3歳、プリンが2歳半だったある日、プリンの朝ごはんの器を下げるときに、プリンの右の前足が大きく腫れているのに気付きました。昨日まで何でも無かったその足をプリンは庇うように歩いていています。

《軟骨肉腫⇨軟骨成分から発生するガンで、足の関節の周囲にみられる腫れや歩行異常の症状がでる。早期に足を切断すれば骨肉腫よりは完治することは多い。骨のガン(骨肉腫)にかかる平均は7歳前後と言われるが2歳前後の犬にも発生する》

プリンの右の前足が大きく腫れた日から数ヶ月後、プリンは3本足になりました。病院で軟骨肉腫と診断されるまでの検査期間にはとても時間がかかりましたが、僕は診断が出た数時間後にはブリーダーさんと相談して、足を切ることもその日に決断しました。間違いなく僕一人で考えていたら答えはでませんでした。病気の状況から判

断の早さがとても重要だったのもありますが、一番はブリーダーさんのアドバイスの適切さでした。

病院から戻ったばかりのプリンは以前のようには動けないことのストレスからか、暗い表情の日が数日続きました。ただ、慣れようとすると3本足で上手に何でも出来るようになり、僕とプリン恒例の深夜の散歩も、疲れたら休憩したりダッコしたりと、以前と同じように続けられるようになりました。この時期、骨肉腫が肺に転移しやすいことはすでに理解していました。定期的に診断してレントゲンをとり、転移していた場合の抗がん剤の可能性も覚悟していました。だから僕はプリンといっしょに毎日を大切に、ひとつひとつの行動を楽しむように生きました。ただ、プリンは頭がいいから僕の行動や気持ちすべてを見透かされているようで、プリンが犬らしくないことが僕を何度も締めつけました。

プリンは4年4ヵ月という短い人生に幕を閉じました。プリンは最期のその瞬間、僕を待っていました。プリンは僕が帰ってくるのを待つという精神力のみで呼吸していました。帰った僕がプリンを抱き締めた瞬間、プリンの体から魂が抜けていくのはつきりとわかりました。僕はプリンの名



前を何度も何度も繰り返して呼びました。4年4カ月という短い人生を何度も何度も繰り返してあやまりました。プリンといっしょに海に行きました。プリンといっしょに花見に行きました。プリンといっしょにドッグランに行きました。プリンといっしょにおやつを食べました。プリンといっしょに昼寝をしました。プリンといっしょに散歩しました。プリンといっしょに大笑いしました。プリンといっしょに大泣きしました。4年4カ月、僕とプリンは毎日いっしょでした。4年4カ月、毎日いっしょだったプリンがいなくなりました。

「大変さや手間もすべて引くくめて楽しむ覚悟」。

フレンチブルドッグという犬種を選ばず、このことは飼い主がする必要のある覚悟だと思っています。なぜなら、その大変さの何十倍もの笑顔や幸せをフレンチブルドッグは間違いなく飼い主に与えてくれるからです。

僕は今現在、フレンチブルドッグ6頭といっしょに暮らしています。キュービーは8歳半になりますが、相変わらずパワフルで元気いっぱいです。他の5頭もキュービーに負けないくらい元気に毎日を過ごしています。きっとこの「FREBULL(フ

レブル)を読んでいる方の中には、これからフレンチブルドッグを迎えたいと考えている方も多いかと思えます。そんな方に少しでも届いてくれたら心からうれしく思えます。フレンチブルドッグを迎え入れるためには十分慎重になるべきですが、迎え入れたら腹を括って幸せにしてあげてください。



ナビゲーターをつとめてくれたのは…
羽田悠一郎 (はつん) ZAIHOO代表
HATSUN

フレンチブルドッグ専門「ZAIHOO (ザイホー)」という、フレンチブルドッグの子犬販売を中心に、ドッグウェアやオーナウェアなども扱うインターネットショップの代表をしています。そのきっかけは、僕自身が初めてフレンチブルドッグの子犬探しをしたときに、理想の子犬を見つけるまでにとっても苦労したから。やっとの思いで子犬を迎え入れ、すぐにフレンチブルドッグの魅力にはまり、2頭目、3頭目を迎え、ドッグショーの魅力にはまり、その過程で知り合うことのできたショーブリーダーさんの繁殖する「フレンチブルドッグらしいフレンチブルドッグ」の子犬を見たときでした。あの当時、初めて子犬探しをしていた僕がいちばん欲しかった子犬情報がこれだと。そしてフレンチブルドッグが人気犬種となった今、そんなショーブリーダーさんの子犬情報を紹介することで、子犬探しがされている方の目が肥え、それによって少しでも乱繁殖の減少につながればと思っています。